様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 １１ 日現在

機関番号：３３９１９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０３３００

研究課題名（和文）東南アジアにおける呪術的イレズミの人類学：知識と力をまとう身体の比較研究

研究課題名（英文）Anthropology of Magical Tattoos in Southeast Asia: Comparative Study of Body, Knowledge and Power

研究代表者
津村　文彦（Tsumura, Fumihiko）

名城大学・外国語学部・教授

研究者番号：４０３６３８８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究期間を通して明らかになったのは次のような諸点である。(1) 現代東南アジアにおける呪術的イレズミは、映画やドラマなどのメディアの影響を強く受けて、タイのサックヤンがその他の国にも広く普及しているということ、(2) 呪術的イレズミと身体と知識は不可分な形で結びつき、その結びつきは憑依儀礼などで表現されていること、(3) タイのサックヤンは、仏教のみならず、バラモン―ヒンドゥー伝統とも深い関わりをもっていること、(4) バラモン―ヒンドゥー伝統が東南アジアの宗教実践を考える上で、無視できない強い影響力を保持しており、人びとの関心が近年高まりつつあることなどである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　学術的には、文字と知識をめぐる研究群に、身体の軸を加えることで、イレズミ論の新たな研究視角を生み出すとともに、東南アジアにおける身体論・知識論に新たな知見を提供する。
　社会的意義としては、イレズミについての理解の促進が挙げられる。近年日本ではイレズミをめぐる事件がしばしば報じられている。2013年の温泉地でのイレズミのある外国人の入浴拒否、2015年以降相次いでいる医師免許のない彫り師の検挙など、イレズミは日本において社会問題となっている。現代東南アジアの状況を詳細に分析し、それを広く日本社会に発信することは、グローバルな状況下での自文化の捉え直しに繋がるだろう。

研究成果の概要（英文）：　During the research period, we found the following points: (1) Magical tattoos in modern Southeast Asia are strongly influenced by media such as movies and dramas. In particular, Sakyan in Thailand is widespread even in other countries in the area. (2) Magical tattoos and body/ knowledge are inseparably linked and the link can be found in possession rituals concerned with tattooists. (3) Sakyan is deeply related not only to Buddhism but also to Brahman and Hindu traditions. (4) Brahman and Hindu traditions have a strong influence on religious practices in modern Southeast Asia and people's interest is growing in recent years.

研究分野：文化人類学

キーワード：身体　イレズミ　東南アジア　宗教　呪術　タイ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

東南アジア大陸部における呪術的イレズミをめぐって地域間比較を行う本研究は、(1)身体変工としてのイレズミ、(2)東南アジアの書承文化、(3)呪術をめぐる人類学的研究などに関連するものである。以下、それぞれの研究動向を簡潔にまとめる。

(1) 身体変工としてのイレズミ

19 世紀より太平洋地域を中心に、身体変工としてのイレズミの記録が蓄積されてきた。その多くはイレズミを「未開」や「異文化」の表象とみる博物学的記述で、現在もタトゥーの図案集が数多く出版されている。人類学では、イレズミ図案の分析から社会構造を読み解くもの[レヴィ＝ストロース 1972]、人とモノの相互作用を分析するもの[Gell 1998]も見られるが、いずれもイレズミそのものを分析対象としてこなかった。

90 年代以降は、グローバル化の文脈のもとで土着の文化復興と関連させ、太平洋地域では男性性や「伝統」の創造、欧米では若者文化やサブカルチャーの文脈で議論することが多い[Bagot et al 2014]。また日本人のイレズミ観を論じる研究も見られる[山本 2016]が、東南アジアのイレズミの複雑な動態はこれまでほとんど論じられてこなかった。

(2) 東南アジアの書承文化をめぐる研究

東南アジアにおいてイレズミ研究は書承文化研究と深い関わりをもつ、たとえばサックヤンと呼ばれるタイの呪術的イレズミでは、図像とともに文字が身体に刻まれる。西洋における文字と音声の対照とは異なり、東南アジアの宗教実践では、文字は音声を支持・強化するために用いられている[Kashinaga (ed.) 2009]。

その延長上にある本研究は、呪文という文字知識を身体と一体化させる東南アジアのイレズミを対象化することで、文字と音声の関わり、知識と身体の関わりをめぐる問題系をさらに深化させる契機となる。

(3) 呪術をめぐる研究

1990 年代以降の商品経済や都市化が浸透した社会状況を背景とした現代的な呪術のあり方をめぐって、人類学では多くの研究蓄積がみられ、東南アジアでもそうした研究が展開されてきた[Watson et al (eds.) 1993]。

研究代表者も上座仏教の護呪経をモノや身体に宿らせて呪力を発揮する東北タイの宗教実践についてこれまで論じてきたが [津村 2015 ほか]、東南アジアのタトゥーをめぐっては、呪術的な宗教実践を広く論じるなかで、概略的にわずかに触れられてきたに過ぎない。イレズミという呪術的実践を、仏教のみならず、バラモン教などとの関連で捉える本研究は、東南アジア地域の宗教観を刷新させる可能性をもつ。

こうした研究動向を踏まえて、研究代表者のこれまでの研究を背景として略述したい。
研究代表者はこれまで東北タイの精霊信仰と呪術をめぐる研究を行ってきた。そこでは、ピーと呼ばれる精霊が、人々の語りと宗教専門家の実践によって受入可能な現実に配置されるプロセスを論じてきた[津村 2015]。

その過程で文字と図像を用いた呪具製作も分析したが、タイの呪術的イレズミでも同じ文字と図像が用いられることから、イレズミの呪的利用に関心をもった。そこで、本研究の前身となる研究プロジェクトとして、科研費（基盤 C）「タイにおけるタトゥーの魅惑と暴力をめぐる人類学的研究」（平成 26～28 年度）を開始した。近年増加するファッション目的のタトゥーの消費の様子、それでもなお活発に実践される呪術的イレズミの受容のあり方、また体内に注入されるモノとその効果について明らかにしてきた[津村 2016 ほか]。しかしその研究は、呪術的イレズミをファッションタトゥーと対比しながら、タイのイレズミの現代的状況を描くことを主たる目的としたものであって、東北タイ村落を主たる事例に限定せざるを得なかった。

一方、前プロジェクトにおいて調査を進める過程で、その他の地域や民族への言及がなされることに気付き、地域間・民族間比較の視点が不可欠であるとわかってきた。また従来の研究で彫師（*acan sak*）として記述されてきた専門家には、仏教僧侶やバラモン教の修行者など多様な宗教的属性が含まれることも明らかになった。前研究プロジェクトでは、こうした課題に取り組むことはできなかったため、新たに浮上した問題に着手するため本研究を開始することとなった。

［参考文献］

Bagot, P. et al. 2014. *Tattoo*. Musée du Quai Branly.

Gell, A. 1998. Art and Agency. Oxford UP.

レヴィ＝ストロース, C. 1972.『構造人類学』みすず書房.

Kashinaga, M. (ed.). 2009. *Written Culture in Mainland Southeast Asia*. National Museum of Ethnology.

Terwiel, B. J. 1994. Monks and Magic. White Lotus.

津村文彦. 2015. 『東北タイにおける精霊と呪術師の人類学』めこん.

津村文彦. 2016. 「美しくも、きたないイレズミ—タイのサックヤン試論」『年報タイ研究』16: 39–60.

Watson, C. W. et al. (eds.). 1993. Understanding Witchcraft and Sorcery in Southeast Asia. University of Hawai'i Press.

山本芳美. 2016.『イレズミと日本人』平凡社.

２．研究の目的

本研究は、現代東南アジアにおける呪術的イレズミを、地域間および民族間の影響関係のもとに読み解き、文字と身体を介した知識／力として、多様な宗教性を帯びながら実践される状況を、具体的かつ実証的に明らかにすることを目的とする。本研究の問題系は、(1)地域間・民族間でのイレズミの流通、(2)文字と身体と知識／力、(3)イレズミ彫師の宗教性の３つにわたり、さらに総合的には、(4) イレズミをめぐる地域比較、(5) 東南アジアの宗教理解の刷新を目指すものである。

(1)地域間・民族間でのイレズミの流通の問題系

東南アジアにおけるイレズミの民族的・空間的広がりと相互関係を明らかにすることを目指す。東北タイのラオ族の間では、より強力な呪術的イレズミは、カンボジアのクメール族に由来すると語られ、北タイのユアン族では、ミャンマーのカレン族やシャン族に由来すると伝承される。言語や文字が異なる社会の間で、いかにして呪術的知識が伝承されるのかについて、文字と図像、伝承者と伝承過程、道具の観点から分析する。

(2)文字と身体と知識／力の問題系

イレズミのもつ知識と力の２つの特性を明らかにすることを目指す。知識とは、刻まれる文字と図像のみならず、広くイレズミに関わる宗教的な知識と実践を含む。力とは、攻撃、防御、治療、誘惑など呪術的な特性を意味する。両者が身体上で結びつくのが東南アジアのイレズミであり、そうした知識と力の様態は他の宗教実践、特に護符や小仏像をめぐるモノの信仰とも連続する。知識と力をめぐる信仰からこの地域固有の身体論・知識論を検討する。

(3)イレズミ彫師の宗教性

各地域のイレズミ専門家と宗教との関わりを明らかにすることを目指す。東南アジアでは、都市の現代的タトゥーを除くと、イレズミ彫師は単なる技術専門家ではなく、宗教専門家である場合は多い。たとえば、タイでは、仏教僧侶、バラモン教の僧侶（*phram*）や修行者（*ruesi*）、また敬虔な俗人仏教徒や精霊信仰の専門家が、呪術的イレズミを求めに応じて施す。各地域のイレズミがいかなる宗教性をもって実践されているかを比較分析する。

(4) イレズミをめぐる地域比較

従来の東南アジア大陸部のイレズミ研究では、そもそもタイ以外の諸国についてほとんど記述がなされていない。しかし現実にはイレズミをめぐる語りでは、起源あるいは相互交流などで近隣の他の国や民族が言及されることが多い。地域間・民族間の比較を視野に入れることで、東南アジアの生活実態に即した動態的なイレズミ実践を描くことが可能になる。

(5) 東南アジアの宗教理解の刷新

東南アジアの呪術は上座仏教との対照のもとで周縁的な宗教実践として位置づけられてきた。しかし、上座仏教のみに依拠するのではなく、バラモン教や精霊信仰などを参照軸として宗教実践を描くことで、一元的な仏教世界と認識されてきた東南アジア大陸部の宗教世界の視角を転回させ、必ずしも仏教論理ではない、身体論・知識論に拠った世界把握が可能になる。

こうした研究目的を追求することによって、学術的には、文字と知識をめぐる研究群に、身体の軸を加え、イレズミ論の新たな研究視角を生み出すとともに、東南アジアにおける身体論・知識論に新たな知見を提供することを目的とする。

さらに近年日本ではイレズミをめぐる事件がしばしば報じられる。2013 年の温泉地でのイレズミのある外国人の入浴拒否、2015 年以降相次ぐ医師免許のない彫師の検挙など、イレズミは日本において社会問題となっている。現代東南アジアの状況を詳細に分析し、広く日本社会に発信することは、グローバルな状況下での自文化の捉え直しに繋がるという見通しのもと、研究を開始させた。

３．研究の方法

本研究は現代東南アジアにおける呪術的イレズミについて、(a)地域間・民族間の流通、(b)文字と身体と知識／力、(c)宗教性の３つの問題系から読み解き、身体に宿される知識／力をめぐる信念の地域的な特性を解明するものである。

初年度は、(a)地域間・民族間の流通について調査を実施し、イレズミの知識と技術の伝承について情報収集した。次年度は、(b)文字と身体と知識／力に重点を置きイレズミ師とクライアントを対象に調査を実施し、イレズミを求める理由と期待する効果を分析した。最終年度は、(c)宗教性について、イレズミ師とその信奉者を対象に調査を実施し、多様な宗教的背景を明らかにするとともに、東南アジアのイレズミの社会的状況を精査した。全体として、北タイと東北タイを主たる調査地としながら、ミャンマーを主たる比較対象として措定する。さらに東南アジア大陸部を視野に入れるため、ラオスとカンボジアの状況にも注意を払う。しかし実際の調査では、複数の種類のインフォーマントがともに存在することから、フィールドでは必ずしもこの枠組みに固執することなく、情報収集の便宜を第一に図って柔軟に調査を進行させた。

平成 29 年度

「(a)地域間・民族間のイレズミの流通」に焦点を当ててフィールド調査を実施する。イレズミを彫る専門家とイレズミを持つ者を対象にインタビューを行った。

フィールド調査は、平成 29 年 5 月 18 日より 23 日までタイ・コーンケーンにて、8 月 28 日より 9 月 8 日までタイ・チェンマイ、バンコク、コーンケーンにて、平成 30 年 2 月 5 日より 12 日までラオス・ルアンパバーン、フアイサーイ、ルアンナムターにて実施した。

平成 30 年度

「(b)文字と身体と知識／力」に重点を置きながら、前年度の調査のなかから選定した専門家のもとで、彼を頼るクライアントにも聞き取り調査を実施した。

フィールド調査は、平成 30 年 8 月 13 日より 21 日までカンボジア・プノンペン、ラオス・ヴィエンチャン、タイ・バンコクにて、平成 31 年 2 月 27 日より 3 月 8 日までタイ・チェンライ、コーンケーン、バンコク、ミャンマー・タチレクにて、3 月 13 日より 18 日までタイ・ナコンパトムにて実施した。

平成 31 年度

「(c) イレズミの宗教性」を主たるテーマとして、イレズミに関連する宗教専門家の活動を検討して、イレズミを特殊な身体変工の一つとしてみるのではなく、宗教実践の文脈での社会的布置を探った。

フィールド調査は、平成 31 年 8 月 1 日より 10 日までタイ・コーンケーン、チェンマイ、バンコクにて、平成 31 年 10 月 29 日より 11 月 2 日までシンガポールにて実施した。

４．研究成果

本研究期間を通して明らかになったのは、大きくは次のような諸点である。①現代東南アジアにおける呪術的イレズミは、映画やドラマなどのメディアの影響を強く受けて、タイのサックヤンがタイ以外の国においても広く普及しているということ、②呪術的イレズミと身体と知識は不可分な形で結びつき、その結びつきは憑依儀礼などで表現されていること、③タイのサックヤンは、仏教とも関わりをもつが、バラモン–ヒンドゥー伝統とも深い関わりをもっていること、④バラモン–ヒンドゥー伝統が、東南アジアの宗教実践を考えるうえで、無視できない強い影響力を保持しており、人びとの関心が近年高まりつつあることなどである。

以下では、本研究期間中に得られた成果を、以下、項目ごとに略述する。

(1) ワイクルー儀礼（リシと仏教僧侶）

研究期間中に、ワイクルー儀礼（*phithi wai khru*）に二度の参与観察を行った。

平成 29 年 5 月に参加したバラモン系修行者リシ M のワイクルー儀礼（タイ・コーンケーン県）では、リシ M の師匠や兄弟弟子にあたるリシ４名が司式に関わり、およそ千人程度の参加者が見られた。読経や仮面を被せる儀礼の過程では、特に熱心な弟子を中心に憑依状態が観察された。憑依はコーンクン（*khong khuen*）と呼ばれ、呪術的イレズミに師匠の力が再充填された際に、耐えきれないと起こると否定的に語られることが多かった。

平成 30 年 3 月に参加したワット・バーンプラ寺院（タイ・ナコンパトム県）のワイクルー儀礼は、より大規模に実施される。ワット・バーンプラ寺院は、世界中からサックヤンを求めてクライアントが訪れる。ワイクルー当日は早朝 7 時ぐらいには儀礼が始まり、数千人の信者が寺院の中庭に集結する。多くは前方で読経をする僧侶に向かって祈りを捧げたり、座って瞑想を行ったりしている。一部のものは寺院内にて瞑想を行っている。儀礼の最後に行われる読経では、会場のあちこちで無秩序にコーンクンが繰り返され、聖水の撒布が大規模に行われる。呪術的サービスの一大イベントと化しているのが、ワットバーンプラのワイクルー儀礼であった。

(2) 北タイのサックヤンと彫師

研究期間中に、タイ・チェンマイ県およびチェンライ県にて、複数のサックヤンの彫師を対象にインタビュー調査を実施した。彼らの多くは仏教徒でありながら、同時にバラモン教的な伝統を色濃く宗教実践のなかに保持していた。祭壇にはバラモン系の神々の仮面や神像が祀られており、(1) で見た憑依とも深い関わりをもっている。またイレズミの伝統に関していえば、北タイの彫師の多くは国境を越えたミャンマーのシャンとの関係が深く、シャンの彫師との間で呪術的な知識を交換・売買する。イレズミに用いられる文字には、ランナー文字やコーム文字、シャン文字が見られた。

一部の彫師や僧侶は、サックヤンを含むランナーのイレズミを伝統文化として位置付ける意識が強く、文化伝統を保護するネットワークを作って積極的な活動を行っている。

(3) ラオスにおける呪術的イレズミの状況

平成 30 年 2 月にラオス・ルアンパバーン県およびボーケーオ県を訪れ、サックヤンの実施状況について広域調査を行った。

第一に、タイと比べると、現代のラオスにおいてはイレズミ実践が極めて低調であった。特に北タイの都市部においては、タトゥーショップも少なく、伝統タトゥーの実践者もほぼ見られな

い。山地に住む異民族の村落にはあるかもしれないという語りはたびたび聞かれたが、確認はできていない。またイレズミについて話を聞くと、「イレズミを入れると町で仕事が得られない」、「タイ側に行ってサックヤンを入れたい」と語る者が多く見られた。イレズミや呪術イレズミはタイと結びつけて連想されるとともに、反社会的な徴としても捉えられている。ヴィエンチャンにおいても、イレズミで人気があるのは西洋式のタトゥーで、伝統的タイプはほとんど見られなかった。

(4) カンボジアのサックユアン

プノンペン近郊の農村で、呪術的イレズミを行うクルーと呼ばれる宗教専門家から話を聞くことができた。呪術的イレズミはサックユアンと呼ばれ、インクを用いないで尖った金属で書き付けるものをチャーンと呼ぶ。

あるクメール系のクルーは、カンボジアのみならずタイ国境に遍歴し、そこで呪文の交換や瞑想修行をしながら呪術的知識を学んだと語っていた。彼はサックユアンの知識はタイ人から学んだと言う。このクルーは、自身をバラモン教（プロマイン）と語り、仏教とバラモン教の混淆した宗教実践を行っていた。

そのほか、内戦のころにはサックユアンを求めるものが多かったが、最近はあまり流行っておらず、西洋式のタトゥーの方が人気があるとか、現在は男性よりも女性の方が呪術イレズミを求めることが多く、彼女たちの多くはタイで入れてくるとも語られる。

(3) のラオスの状況も踏まえると、現在の東南アジア大陸部においては、呪術的イレズミはタイが大きなセンターとしての役割を果たしていると言える。

（5）ミャンマー・シャン州のサックヤン

北タイのメーサーイの彫師たちは、古くから国境を越えたミャンマーで呪術を学んできたと語る。そこで、タイのメーサーイとミャンマーのタチレクにて呪術を行う専門家や僧侶に聞き取りを行い、呪術的な知識の広がりについて情報を得た。

タイ側のメーサーイにはバラモン系のリシがおり、それぞれサックヤンを含む呪術的なサービスを行っている。(2) でもすでに述べたが、ミャンマーのシャン（タイヤイ）との間で知識のやりとりが行われ、北タイとシャン州の伝統は簡単に区別することができない。一方、メーサーイの彫師に共通しているのは、グローバルな意味での外部世界とのつながりで、Facebook で活動を報告したり、海外のタトゥーコンペティションに参加したり、呪具を海外に販売したりするリシも見られた。一方のタチレクの呪術専門家は、限られた人数しか訪問できていないが、仏教への傾倒がより強く、また外部世界とのつながりがより希薄に感じられた。

イレズミとしては西洋式のタトゥーの方が人気が高く、タトゥースタジオも多数見られたが、伝統的なイレズミへの関心は一般的には薄く思われた。

(6) 東北タイのヒンドゥー教寺院の儀礼

サックヤンとバラモン―ヒンドゥー伝統の結びつきに注目して、東北タイのバラモン教に関する専門家を探索していると、特異な神殿に行き着いた。テーワーライ・シヴァ・マハーテープ寺院で、バーバーKと呼ばれる師が住職をしている。

バーバーKの執行する年中儀礼マハーシヴァ・ラートリーにちょうど参与観察することができた。参会者の多くは東北タイの一般的な仏教徒であるが、インドの民族衣装サリーを身にまとう女性が非常に多く、儀礼では、バーバーKが、炎を用いた祈祷を行ったり、ビブーティーを神殿内で撒布しながら歩き回ったりして、1000 人近くの信者たちが熱狂的に祈りを捧げていた。なかにはコーンクンする者もいて、カオスな情景が見られた。

これまで東北タイのラオ系住民については、上座仏教徒としか語られてこなかったが、彼らの宗教実践を広い目で見ると、バラモン―ヒンドゥー教的な特徴が数多く伺える。宗教を信仰的な側面、儀礼的側面だけでなく、遊びの側面も含めて捉えることでそうした特徴が明らかになることがわかった。

(7) シンガポールにおけるタイの呪具とサックヤン

タイのバラモン系の修行者への信仰を見ていると、国境を越えて華人が呪術的信仰を媒介していることが伺えた。そのため、華人系住民の多いシンガポールにおいて、サックヤンを含むタイの呪術的信仰がどのように受容され消費されているのかを調査した。

シンガポールでは、Fu Lu Shou ショッピングモールやゴールデン・マイル・コンプレックスなどのショッピングモール内の大乗仏教や風水系の店のなかに、タクルットなどのタイの呪具を扱う店が見られた。

店主は華人系シンガポール人で、彼らの多くは宗教的関心からタイに興味をもち、自らタイに渡って、僧侶や俗人アジャーンと出会うことをきっかけとする者が多い。

多くの店では、数ヶ月に一度、タイから僧侶やアジャーンを招請する。店主の直接の師匠や、その知人をタイから招き、ショップの奥のスペースで災厄払いや招福の儀礼、サックヤンを施しており、利益を折半しているようであった。Facebook や WeChat などで宣伝を行ってクライアントに告知を行っている。店によっては儀礼の値段表を店前に掲げているところもあり、呪的儀礼も商品化がかなり進んでいるように見えた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Tsumura Fumihiko	４．巻 48
２．論文標題 Book Review: Communities of potential: Social assemblages in Thailand and beyond Edited by Shigeharu Tanabe (ed.)	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Journal of Southeast Asian Studies	６．最初と最後の頁 334～336
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0022463417000467	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 津村文彦	４．巻 25
２．論文標題 書評：矢野秀武著『国家と上座仏教―タイの政教関係―』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 宗教と社会	６．最初と最後の頁 196-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 津村文彦	４．巻 3
２．論文標題 Tattoos for Beauty and Magic: An Anthropological Study of the Sakyan Tattoo in Thailand	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of the Faculty of Foreign Studies	６．最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　0件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 津村文彦
２．発表標題 東北タイにおけるサックヤンと憑依
３．学会等名 日本文化人類学会中部地区研究懇談会（中部人類学談話会第244回例会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Fumihiko Tsumura
２．発表標題 The Sight and Touch of Healing Magic in Northeastern Thailand
３．学会等名 the 9th EUROSEAS（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Fumihiko Tsumura
２．発表標題 Rishis in Northeastern Thailand: Brahman Religious Practices under Buddhism
３．学会等名 the 2nd SEASIA Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 津村文彦
２．発表標題 コメント（デ・アントーニ　アンドレア「スペクターのスペクトラム―現代イタリアと日本における精霊と憑依に関する体験・感覚・情動の比較に向かって」）
３．学会等名 日本文化人類学会近畿地区研究懇談会（京都人類学研究会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 津村文彦
２．発表標題 書評セッション　椋橋彩香著『タイの地獄寺』
３．学会等名 日本タイ学会第21回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Fumihiko Tsumura
２．発表標題 Introduction: Portraits of Magical Practitioners
３．学会等名 IUAES Inter-Congress 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Fumihiko Tsumura
２．発表標題 “Fake Makes Genuine: The Magical Reality of Brahmanistic Hermits in Northeastern Thailand”
３．学会等名 IUAES Inter-Congress 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Fumihiko Tsumura
２．発表標題 ‘Instagrammable' Religion: A New Perspective on “Brahmanism/ Hinduism” in Thailand
３．学会等名 SEASIA Biennial Conference 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計5件

１．著者名 津村文彦（分担出版）	４．発行年 2019年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 292
３．書名 「イカサマ呪者とホンモノの呪術―東北タイのバラモン隠者リシ」川田牧人・白川千尋・関一敏編『呪者の肖像』	

1．著者名 福岡 まどか、福岡 正太、井上 さゆり、ウィンダ・スチ・プラティウィ、金 悠進、小池 誠、坂川 直也、鈴木 勉、竹下 愛、竹村 嘉晃、津村 文彦、馬場 雄司、平田 晶子、平松 秀樹、丸橋 基、盛田 茂、山本 博之	4．発行年 2018年
2．出版社 スタイルノート	5．総ページ数 480
3．書名 東南アジアのポピュラーカルチャー	

1．著者名 川田 牧人、白川 千尋、関 一敏	4．発行年 2019年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 292
3．書名 呪者の肖像	

1．著者名 杉島 敬志	4．発行年 2019年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 360
3．書名 コミュニケーション的存在論の人類学	

1．著者名 信田　敏宏	4．発行年 2019年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 832
3．書名 東南アジア文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

(1) 津村文彦、「第 9 回ヨーロッパ東南アジア学会(EuroSEAS) 研究大会に参加して 」、『東南アジア学会会報』、107号、2017、31-32.
(2) 津村文彦、パネリスト、「第二部 温泉タトゥー問題の検討／共同討議」、国際シンポジウム「イレズミ・タトゥーと多文化共生―「温泉タトゥー問題」への取り組みを知る―」、, 2019年3月30日、TKP西新宿カンファレンスセンター3Bホール（東京都新宿区）.

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考